

あしたを生きるために
きょうできること

11月6日・7日 ぼうさいこくたい2021

ぼうさいこくたいは「災害について学び、語り、体験することを目指し内閣府が主催する国内最大級の防災イベントです。

「～震災から10年～つながりが創る復興と防災力」をテーマに、市民ホールTETTOや市内各所でセッション、ワークショップ、プレゼンテーションブースの出展など幅広い催しが行われ、震災時には生まれていない子どもたちから、災害研究の専門家までオンラインを含めて延べ16,000人以上が参加しました。交流を深めながら、災害に対してどう備えるか、災害が起きたあとどうやって復興していくかを考え、語り合いました。

「津波防災の日」 スペシャルイベント

ぼうさいこくたい2021とあわせて11月5日(金)に「津波防災の日」スペシャルイベントが開催され、釜石市から釜石市防災市民憲章制定市民会議代表を務めた丸木久忠さんが登壇。震災の教訓を「備える、逃げる、戻らない、語り継ぐ」とまとめた経緯を説明しました。



①釜石高生有志で結成された「夢団～未来へつなげるONE TEAM～」は震災の語り部活動を行っています

②震災直後から被災地域で演奏会を行ってきたシンガーソングライターの八神純子さんが、オープニングセレモニーに登場。力強い歌声で観客を魅了しました

③野田市長は「市全体で災害の経験を語り継いでいる防災教育のまち・かまいしを発信する大きな意義を持つ大会になった」と話しました

④震度7までの地震を再現することができる地震体験車「防災そばっこ号」

⑤段ボール製の釜石のジオラマを組み立てながら、浸水や土砂災害のリスクを考えました

⑥てこの原理を利用し、段差に強い車いすを出したブース。体の不自由な人や高齢者のスムーズな避難をどうやって支援するか、アイデアを凝らしました

⑦災害時は体を冷やさないことがとても重要。ボイスカウト日本連盟は、ポリ袋のレインコートを作る体験ブースを出展しました



平原綾香さんを釜石応援ふるさと大使に委嘱しました



市長から平原さんに委嘱状が交付されました(11月13日)

シンガーソングライターの平原さんは、2018年8月の釜石鵜住居復興スタジアムのオープニングセレモニーで釜石東中生とともに歌を披露した他、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開幕戦では、国歌斉唱を務めるなどラグビーとの関わりが強く、歌を通して市民に元気や感動を与えています。また、釜石市ラグビーこども未来基金に300万円を超える寄付をするなど、釜石のスポーツ振興に貢献しています。

11月14日に開催された、いわて・かまいしラグビーメモリアルマッチでも「Jupiter」などを披露し、美しい歌声でスタジアムは感動に包まれました。



「また釜石に来て歌を届けたい」と思いを込めました

11月 14日 いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント 釜石鵜住居復興スタジアム

ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催のレガシーを未来に継承させるために開催されたメモリアルイベント。釜石シーウェイブスRFC(以下、釜石)とコベルコ神戸スティーラーズ(以下、神戸)が対戦したメモリアルマッチの他、中学生の交流大会や平原綾香さんによる歌の披露、スタンンドの外ではファンゾーンも設置され、2,400人を超える観客が来場しました。

メモリアルマッチで釜石と対戦した神戸は、1995年に阪神・淡路大震災で被災し復興を成し遂げた経緯があり、釜石との一戦には特別な思いを持ち臨みました。1月に開幕するジャパンラグビーリーグワンのディビジョン1に所属する神戸に対して、釜石が挑戦し、神戸が終始リードしながら試合を進めますが、釜石もスクラムやゴール前のモールでフォワードが奮闘し意地を見せました。試合は、25対40で神戸が勝利。集まった観衆は、神戸のハイレベルなラグビーと釜石が見せたファイトに惜しみない拍手を送りました。



ラインアウトモールから芳野選手のトライ



ファンゾーンやグルメコーナーもたくさんの人でぎわいました



ハーフタイムには、釜石の子どもらがナミビアとカナダ国旗を掲げ、感謝のメッセージを届けました



はたらく車展は、子どもに大人気のコーナーでした